



るうてる



2019年
6月
No.858

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 李明生 koho@jelc.or.jp

■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座 ■ 00190-7-1734

説教「聖霊の働きを信じて生きる―使徒言行録第29章」

日本福音ルーテル市川教会 牧師 中島 康文

こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。(使徒言行録6・7)

使徒言行録は口語訳聖書では「使徒行伝」と言われていましたが、「聖霊行伝」とも呼ばれていました。使徒たちの働きを記した書物ではなく、聖霊の働きを記した書物だからです。

聖霊の働きによって福音が進展していく、とすれば、28章で使徒言行録は終わっていますが、使徒言行録29章に「私」の歩みを付け加えて読むことができます。 (ただし29章は聖書にはなりません。)

私は2000年に赴任



しました。市川教会会堂はW.M.ヴォーリズ建築の一つで、1956年に献堂されました。赴任当時の会堂は44年を経、外観は建築当初の姿を保持していましたが、内部には至る所に老朽化による傷みが見られました。床は傾き、会堂前面と後方では数センチの差があり、白い壁面には無数のひび割れがありました。もちろん教会員も手をこまねいていたばかりではなく、建築当初の赤瓦は建物の傷みを早めるということで撤去しスレートに替え、外壁も塗り替え、地下に残る防空壕には、地下水からの湿気

を防ぐために泥を掻き出し除湿器を取り付けたりと、必要な処置を行ってき

ましたが、いかんせん軟弱な地盤ゆえに、根本からの対策をとることが出来ず

このままでは会堂の傷みは増すばかりで、やがては耐えきれなくなり崩壊するのではと素人の私にも分かるほどでした。役員会でも度々協議し、更に近隣の工業高校の協力を得て耐震検査を行い、別途に地盤の強度を測る平板耐荷検査も実施しました。

それらの結果は、いずれも「大地震で倒壊する可能性が高い」というものでした。しかし危機感はあるものの補修の資金もなく、役員の間にも「崩れ落ちるのを待つしかない」という思いが占めつつありました。

2007年9月の日曜日の午後のことでした。国府台近辺の建物を見学しておられた三人の先生方(他に数名の学生さん)が



た、会員の熱意による献金全国から献金が寄せられ「資金的にも無理」であった修復工事でしたが、2011年10月に着工に至ることができました。

イエス誕生の折に贈り物を携えて訪ねてきた東の国の二人の博士を思い出します。博士たちは時を超えて私たちの会堂にも「修復の道」という贈り物を携えて来てくれたのです。いえ「あの来訪は、聖霊が働いてくださった出来事に違いない」と、1年1ヶ月を要した工事を終え、2012年12月に竣工感謝礼拝を行いつつ、会員一人ひとりが心に深く刻んだものでした。

使徒言行録29章(市川教会会堂編)は最後に「こうして市川の地の宣教は、聖霊の働きによりますます広がります。教会を愛する人々が増えつきました。」と締めくくられています。

もちろん、この後も30章、31章と書き続けられることでしょう。なぜなら、聖霊は今後も、私にもあなたにも、世の終わるまで働き続けてくださるからです。

あなたの「使徒言行録29章」には何が書かれていますか? 主の平安を祈りつつ。



コラム
直線通り
久保彩奈

⑮だがあなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだから学んだかを知っており、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。(二テモテ3:14-15)

初めて聖書を手にした時のことを覚えていますか。気づいたら傍らにあつた人、苦しみの中で手渡された人、ふと読みたくなり書店で買い求めた人。その出会いは千差万別でしょう。

毎年中学一年生を教えってきたので、4月に聖書と讃美歌を、教室で手渡す役を担ってきました。聖書を手渡された子どもたちの反応も千差万別。

「うわあ!これが聖書か!初めて見た!」「聖書って辞書みたいだね!」と大騒ぎ。聖書をめくりながら「こんなに薄い紙、初めて見たよ!」と興奮する子どももいれば「先生、これ全部読むの?!」と涙目になる子どもも。「先生!わたしのおばあちゃん、聖書持ってるんだよ!」僕は幼稚園で見たことある!という子どもたちもいます。

また「はじめに神は天地を創造された!」と大声で読み始め、叫び出す子どももいました。何より毎年感動するのは、聖書を手渡された子どもたちの目がキラキラと光り輝くこと。聖書を手渡され、嫌がる子どもは一人もいません。聖書をめくり、お気に入りの聖書箇所を見つけることを楽しんでいきます。

聖書との出会いは神様、そしてわたしたちのキリストとの出会いです。あの日、あの時、聖書との出会いが与えられたからこそ、わたしたちは今日もキリストの愛の中で生きられるのです。そしてそれは、空の墓には留まらない、新しい歩みの始まり。今年も子どもたちが、聖書を通して、また生活のなかで、復活のキリストと出会っていきますように。

るうてる法人会連合総会のお知らせ

日時: 2019年8月22日午後1時~23日(終了時間未定)
会場: 東京都三鷹市 ルーテル学院大学



議長室から 大柴謙治

呼吸を合わせてくださる神

呼吸音は通常聞こえませんが、聞こえていても意識されていないのでしよう。それほどまで呼吸と意識は一つになっています。

聖書ではヘブル語でもギリシャ語でも「息」は「風」とも「霊」とも訳されます。ですから「息」に意識を向けることは「神の霊」に心を向けることでもあるのです。

「主なる神は、土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」(創世記2:7)「生きる」と「息する」とも言われています。

「息」は「呼吸」です。赤ちゃんと人はオギャーと泣く前に大きく息を吸い込みます。それまで圧迫されていた肺が大きく広がるためです。そして最初の吐く息で泣き始めます。昔の人は新生児の最初の吸気の中に神の呼吸を聞いていたとされています。

漢字で「息」は「自らの心」と書きます。息遣いには目と鼻の心が表れるということでしょう。自他の呼吸を観察することは対人援助においてもとても大切です。呼吸に意識を向けることで見えてくる次元がある。それは「今」このリアリティです。自分

「息」に意識を向けることは「神の霊」に心を向けることでもあるのです。

「主なる神は、土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」(創世記2:7)「生きる」と「息する」とも言われています。

「息」に意識を向けることは「神の霊」に心を向けることでもあるのです。

「主なる神は、土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」(創世記2:7)「生きる」と「息する」とも言われています。

23・46. 教会讃美歌86番。実は最初と最後の息だけではないのです。私たちの今この呼吸呼吸は神の息とつながっています。インマヌエルの神は私たちと呼吸を分かち合っています。神は私たちと呼吸を分かち合っています。神は私たちと呼吸を分かち合っています。

賛美歌と私たち



①イントロ

小澤周平 (名古屋めぐみ教会牧師)

「主に向かって喜び歌おう。救いの岩に向かって喜びの叫びをあげよう。」(詩編96)

「主に向かって喜び歌おう。救いの岩に向かって喜びの叫びをあげよう。」(詩編96)

「主に向かって喜び歌おう。救いの岩に向かって喜びの叫びをあげよう。」(詩編96)

歌を何曲歌いますか？選曲の理由は？その賛美歌があなたの不慣れた歌や嫌いな歌だらけでしょうか？

きつと、十人十色の答えがあると思います。私たちの信仰生活で、とても身近な賛美歌です。礼拝で、集会で、家庭で会議で、キャンプで、学校で、バッドの上で、一人で夜道を歩く時も、賛美歌はいつも共にある。だから皆多様な想いを抱いているはず。

私はこれまで、若い世代に向けた伝道の現場で少なからず賛美の事柄に関わらせて頂きました。その中で、今日の日本福音ルーテル教会(LC)の礼拝は、特に賛美歌は、若い世代の求めに十分に答えられているか、という問いを持ちました。問いを前に、まずは背景を知りたいと思ひ、神学校の卒業論文では、LCの賛美歌の歴史をかじりました。とは言っても、大半は私が生まれる前の話、信仰の先輩方から証言と、貴重な史料を頂き、事実を整理する所から始めてみました。

礼拝に関わる新しい取り組みが見られます。賛美歌も同じです。そんな今だから、私たちの歴史を振り返ることに意味があると思います。そして過去と今を知ることで、未来に生きる変化への不安も少なくなるかも知れません。こんなことを念頭に本連載を記します。どうぞお付き合いください。もちろん、私自身まだまだ分からないことばかり。もし「意見、感想」などがありましたらお伝え頂きますと幸いです。

ところで、先ほどから当然のように使っている「賛美歌」という言葉。他教派の方とお話してみると、「通じない?」なんてことも、「つづく」

留学生お知らせ

ELCA米国福音ルーテル教会は、教会指導者のための短期研修を目的とした国際奨学金を提供しています。いずれも個人的研究ではなく、将来日本福音ルーテル教会および関連施設に資することを目的としています。今回は特に、臨床牧会訓練(CPE)に関する研究と研修を望む牧師留学生を求めます。期間は2年以内となります。希望する者は日本福音ルーテル教会事務局にお申し込みください。締切は6月末日といたします。



「いわき放射能市民測定室」たちね

小泉嗣



2014年にはじまった東教区プロジェクト3・11、2019年からは活動の規模は縮小されたものの、今年も「いわき放射能市民測定室」たちね(以下「たちね」)の支援を続けま

「たちね」の支援を続けま

「たちね」の支援を続けま

「たちね」の支援を続けま

「たちね」の支援を続けま

「たちね」の支援を続けま

「たちね」の支援を続けま

「たちね」の支援を続けま



安をおぼえる方々の思いを診る(寄り添う)、このクリニクが存在が地域に与える安心は計り知れないものであると実感しました。

見えない放射能に目を向

「たちね」の支援を続けま

「たちね」の支援を続けま

「たちね」の支援を続けま

「たちね」の支援を続けま

ブラジル伝道の区切りと将来 (I)



徳弘浩隆

【10年にわたるブラジル・サンパウロ教会での宣教師派遣から日本へ戻られた徳弘浩隆牧師より、ブラジル伝道についての報告をご寄稿いただきました。2回に分けて掲載いたします。今回はその前半です。】

1 ご挨拶

2019年3月12日にブラジル福音ルーテル教会 (IELCB) 議長と歴代教区長に離任の礼拝をして頂きました。27日に教会員に見送られて帰国しました。これが、日本福音ルーテル教会 (JELC) が正式に宣教師派遣を終了した日となるでしょう。10年ぶりの日本の生活もひと月、逆カルチャーショックも楽しんであります。依頼されましたので、ご挨拶がてらブラジル伝道の歴史や思い出、将来について、私の体験と記憶に基づいてご報告します。

2 歴史

最初の宣教師・藤井浩先生が日本語礼拝をしたのが1965年10月31日。その後は、塩原久先生、土井洋先生、竹田孝一先生、塩原久先生が再び、紙谷守先生、渡邊進先生、私という7名、8代にわたって牧師が送られました。それぞれの先生やご家族の、時には想像を絶するご苦労もあり、ブラジルの日系教会は続いてきました。開拓期、移民青年たちが若く活況の時、教会学校も盛況の時、1度目の教会移転、駐在員の増えた時、移民1世の高齢化、2世や非日系ポルトガル語世代の増えた時、不景気で「日系人デカセギ」が日本へ流入する時など。その後、日本の景気後退でブラジルへ大量帰国、という時に私が赴任しました。

当時JELC常議員会は牧師不足と予算不足を理由に宣教師派遣終了を決議しIELCBや日系教会と交渉し了承を得ていました。JELCで研修も受けた日系人牧師大野健先生がいましたし、ブラジル人青年が牧師を目指していたので、彼らにバトンタッチし、別の方法の支援と交流にする

という計画でした。その交渉に当たったのは事務局にいた私もその一人でした。しかし、翌年のJELC全国総会で現地からの悲痛な訴えを受けて「再度宣教師を派遣」という決議がされ事態は変わりましたので、私が手を上げ行かせていただきました。

サンパウロ教会は良い立地でしたが民家の教会で、牧師も牧師給もJELC頼みでした。赴任直後、駅前開発で立退き提案があり、「将来のある教会になるには、教会成長し自給教会になるしかない。そのために広く活動ができる教会を神様が準備してください」と教会メンバーを説得。「売却益と皆の献金で移転できる、よい所があるなら」と同意を得て、地下鉄沿線を歩き回り、リベルダージという日系人の中心地に良い物件を見つけ価格交渉の末移転しました。ポルトガル語礼拝や日本語教室、パソコン教室や諸イベント、ゲストルームなど活動が活発化し、礼拝メンバーや献金も増えました。

「これならJELCの支援金を断って自給教会になれる」と「4年計画で2015年の宣教50周年までに自給する」と宣言をし、会員の祈りと努力で実現しました。次はバトンタッチですが、ブラジルの教会には日系人の神学生や牧師はいません。日系教会自らが育てなければいけません。候補者は数人いましたが実現しませんでした。日系人の大野健先生は定年年齢に近づき闘病中でしたし神学を学び始めたブラジル人青年も断念しました。すべてが白紙に戻りました。日本からの牧師招聘を交渉しましたがJELCも人材不足で無理でした。サンパウロ教会は私に延長を頼み、JELCは「後継牧師にバトンタッチし、将来を盤石にするために」と了承し、私の任期は合計10年となりました。

2名牧師体制の経済基盤ができたのでブラジル人の若い牧師を招聘し、1年一緒に働き、1年日本で研修、1年引継ぎをして教会を託す計画で、メロ牧師を招聘したので、並行して日系人青年伝道のためにも、青年ボランティアをJELCから募集し活躍してもらいました。(後半に続く)

「これならJELCの支援金を断って自給教会になれる」と「4年計画

写真：左より



- (1) 藤井浩先生の頃 最初の教会で
- (2) 教会学校礼拝をする塩原久先生
- (3) 土井洋先生の頃 2番目のアナ・ローザの教会で
- (4) 竹田孝一先生の頃
- (5) 1995年、宣教30周年記念礼拝 紙谷守先生、IELCB教区長、浅見議長(当時)
- (6) アナ・ローザの教会にて宣教30周年記念訪伯団と共に
- (7) 渡邊進先生の頃 クリスマス聖誕劇
- (8) 徳弘先生赴任直後の頃
- (9) 2010年、現在のリベルダージへ移転献堂式の様子
- (10) 2015年、宣教50周年記念礼拝 現教会近くの佐賀県人会サロンを借りての礼拝と祝会
- (11) モジダスクルーゼス市での家庭集会
- (12) 南部の州の街、イタチでの日本語礼拝集会

ルーテル学院 創立110周年 記念事業

日本ルーテル神学校
石原基夫

ルーテル学院は今年創立110周年を迎えました。1909年に九州熊本に始まった本学の教育は、牧師とキリスト教指導者の育成を目的として始められました。以来神の恵みと多くの方々のお支えをいただいています。

謝申し上げます。ルーテル学院の教育の原点は宣教に仕えることです。しかし、その使命は、

日本初のシェアハウス型 難民シェルター「ジェラ ハウス」が完成しました

日本福音ルーテル社団（JELA、森下博司理事長）が老朽化のため建て替えを進めていた日本初の民間による難民シェルター「ジェラハウス」が4月5日に完成し、建物の祝福式と内覧会を開きました。

祝福式では、大岡山教会の松岡俊一朗牧師が「平和と祝福に満たされる家」と題して説教し、「頼るべきものは、私たちを用いてくださる神様

と聖霊の力です。そこに神様の祝福が与えられます。それは、ジェラハウスに集う一人ひとり、そして世界で助けを必要としている人に向けられているのです」と語りました。

建学当初から単に牧師を育てることだけでなく、ルーターの「全信徒祭司」の教会として信徒の賜物を生かして他者に伝えていくような奉仕者を育成することにありました。

それぞれの節目に教育の幅を広げ、キリスト教的人間理解に立ち、福祉や臨床心理の専門性を深め、社会に貢献する対人援助の専門職を養成する教育を展開してまいりました。

【教会から地域社会へ】

今年、また本学が中野区鷺宮より現在の三鷹市大沢へと移転をした1969年から、ちょうど50年目にも当たります。これを境に、教会の牧師

養成とともに、むしろ地域社会の様々なニーズに応えていく福祉や心のケアを担っていく人材育成へ教育の使命を自覚していくこととなりました。

本学付属の様々な研究所やセンターの公開講座やサービストともに、現在では三鷹市、武蔵野市、小金井市で「新たな支え合い」活動を企画・実践する中核となる市民を育てる働きも担っています。

【記念事業】

110周年の記念事業は、9月の「二日神学校」をはじめ、例年本学が取り組んできています付属の研究所などの講演会企画を、記念の取り組みと

して整えて開催させていただきます。また、特に11月30日には記念大会を企画して、本学の使命を確認し、将来に向かう私たちの教育を多くの方々にお伝えしたいと考えております。それぞれにご紹介、お招きをしてまいります。ぜひ、お祈りに覚え、お支えいただき、本学へと足をお運びいただけますようにお願い申し上げます。



す。ジェラハウスには、「TOKIWA(トキワ)」という愛称が付けられました。由来はもちろん手塚治虫をはじめ漫画家が切磋琢磨したトキワ荘から来ています。日本にやって来た難民の方々が、トキワ荘の漫画家たちのように、能力やスキルを生かして活躍できるようにとの思いが込められています。

新しいジェラハウスでの活動が祝われますようお祈りとご支援をいただければ幸いです。また、難民の方へ日本語を教えるボランティアも

募集しています。ご興味のある方は、JELA 難民支援係 電話03(3447)1521、ファックス03(3447)1523、Eメール jela@jela.or.jp までお問い合わせください。どうぞよろしくお願いいたします。

サバ神学院名誉教授 P・ケンピン先生が 教会事務局を来訪 されました

石原京子
(市ヶ谷教会)

1993年、海外の教会からの支援と祈りに支えられながら、日本福音ルーテル教会は宣教百年を迎えました。女性会連盟当時は婦人会はアジア宣教のお手伝いをする中で感謝の気持ちを表したいと、かつて日本兵が使っていた壕の中にエンユー先生が設立した「サバ神学院」の神学生に奨学金を贈ることを決めました。

交流から26年間、連盟

とサバ神学院の架け橋役をしてくださったのが神学博士・サバ神学院名誉教授P・ケンピン先生です。先生は女性会連盟の会員の方々をサバに招いてくださり、奨学生から牧師になり、ジャングルや農村の教会で、まだイエス・キリストの愛を知らない人々に宣教している姿に会わせてくださいました。

暖かく、主に向かつて行動して行くケンピン先生に、訪れた方々は感動し、献金額がたとえ少なくながらも続けていくことに意義があり、支援の気持ちから感謝の気持ちに変わり、今では女性会連盟の活動の一つとなっています。

ケンピン先生夫妻は神

学院を停年退職後、中国の伝道に力を入れていらっしゃいます。今まで日本には連盟総会と講演会に招かれて来日されていますが、今度は私的に富士山と桜の花を見に日本に行きたいというご希望で4月4日に来日されました。千鳥ヶ淵の桜、芦ノ湖から望む富士山、放射能汚染で帰宅困難地域に寂しく咲く桜並木を先生にゆかりのある方々と訪れることができました。

いつくしみの会ではゲストとしてお話をしてくださいました後、関西に向かわれ、西教区の女性会の方々、札幌から駆け付けた姉妹と5日間、過ごされました。4月7日には市ヶ谷教会

会、14日は京都教会に出席されました。私的な旅なので公的な挨拶は遠慮させて頂くと仰っておられた先生でしたが、ルーテル教会の皆さんから熱い歓迎を受け、事務局の先生にご挨拶しないで帰国することはできないと言われ、お忙しい滝田事務局長に時間を作って頂きました。事務局長にお会いでき、大変喜ばれていらっしゃいました。



左から星野綾江さん、ケンピン先生ご夫妻、石原京子さん、滝田事務局長、浅野世界宣教主事

祝福式の様子



ジェラハウス玄関前にて



ルーテル子どもキャンプのお知らせ

小学5・6年生対象のルーテル子どもキャンプ。今年のテーマは「ハロハロの国フィリピン」ごちやまぜの「ハーモニー」、主語句は「多くの部分があつても、一つの体なのです」(コリント12・20)に決まりました。

ハロハロコンビで売って



お兄さんやお姉さんがいるし、お友達ができるから安心して行つてらっしゃい。背中を押して

あげてくださいます。また、キャンプのスタッフも必要としています。リーダーは18歳から、ジュニア募り募ります。キャンプを裏方で支えてくださるスタッフも募集しています。知識や経験が無くても大丈夫です。

開催日程は8月6日(火)〜8日(木)、場所は東京のルーテル学院大学・日本ルーテル神学校です。詳しくは、以下のURLからご確認ください。
the-next-blogspot.com